

# ウミガラス 英: Common Murre (米), Common Guillemot (英) 学: *Uria aalge*

## 1. 分類と形態

分類: チドリ目ウミスズメ科

全長: 441 (420-472)mm 翼長: 221 (205-235)mm  
 翼開長: 714 (664-788)mm 頭長: 113 (109-120)mm  
 尾長: 61.5 (55.5-66.0)mm ふし長: 40.1(37.3-42.4)mm  
 嘴峰長: 45.2(42.8-47.1)mm 嘴高: 15.0(13.6-16.2)mm  
 ※著者による計測値. 北海道北部日本海側で採取した9個体の  
 平均値(最小-最大).

### 羽色:

雌雄同色. 嘴は濃い灰色または黒色. 足は灰色または黄色がかった灰色. 上面は黒褐色, 下面の胸から腹・下尾筒と次列風切の先端が白い. 生殖羽では頭・首が黒褐色で, 非生殖羽では前頸から目の後方まで白く, 目の斜め後下と後ろの頭中央部に黒褐色の線が入る. 巣立ちヒナは成鳥の生殖羽と同じ羽色だが嘴が短い. 春の換羽は1~3月頃行われる. 大西洋には夏羽で目の斜め後ろが白くなる個体群がいる(葛西臨海水族園で飼育されている).



写真1. 天売島繁殖地のウミガラス.

### 鳴き声:

成鳥はウーレン, ウー, ウッウツ, ヒナはフィ, フィーと鳴く.

## 2. 分布と生息環境

### 分布と生息数:

太平洋北部, 大西洋北部と北極海の一部で, 合わせて1,200~1,500万つがいが繁殖している(Gaston & Jones 1998). 太平洋側の繁殖地はアメリカ合州国西部からベーリング海, オホーツク海, 日本海, さらに北極海の一部にかけて分布する. 大西洋側ではアメリカ合州国北東部とカナダ東部, アイスランド, ヨーロッパ北西部, 北極海の不凍海域に分布する.

日本ではかつては北海道のユルリ島, モユルリ島, 松前小島, 天売島の4つの繁殖地があったが(藤巻1961, 黒田1963, 環境庁1973), 現在は天売島のみで少数が繁殖している. 天売島は西太平洋の分布の南限の一つになっている.

### 生息環境:

冬の羽幌から天売島への航路上では, 主に沿岸から5km以上沖合を利用する. 繁殖期以外に陸地に近づくことは少ないが, まれに港に入ることがある. また嵐の後など, ごくまれに海岸沿いの陸地や札幌・旭川など内陸への迷行記録がある. オホーツク海では接岸前の流水の縁にいる.

## 3. 生活史

繁殖システム: 繁殖期 非繁殖期

一夫一妻. 離島の崖, 崖の上, まれにくぼみ・洞窟を利

用して, 陸上で直立し, 最大34羽/m<sup>2</sup>(Tuck 1960)という高密度で集団繁殖する. 最も早い個体で4歳から繁殖を始める(Harris *et al.* 1994). 毎年同じ繁殖地の同じ場所で繁殖することが多い(Harris *et al.* 1996).

### 巣:

巣材を使わず岩などの上に直接卵を産む.

### 卵:

一腹卵数は1. 抱卵初期に卵が失われた場合, 2個目の卵を産むことがある. 卵は転がって落下しにくい洋なし型(長径69.5~92.7mm, 短径49.4~52.2mm, 108~112g; Gaston & Jones 1998)で, 色は白や青緑でまだら模様がある(写真2).



写真2. 卵の色や模様には個体差がある.

Photo by 青塚松寿

### 抱卵・育雛・巣立ち:

天売島では5月中旬から6月下旬に産卵する. 抱卵日数は平均32.4日(n=18)で, 第1卵の孵化率は77.5%(n=45), 第2卵の孵化率は75%(n=4)だった. 巣内育雛日数は平均22.6日(n=15)だった. 片親が常時, 捕食者から卵やヒナを守る. また繁殖に失敗した親鳥がほかのヒナの世話をすることがある. ヒナは半早成性で, 親の18~28%の体重(Harris & Birkhead 1985)で巣立つ(写真3). 天売島では, 7月中旬から8月上旬の17~21時の間に繁殖地から海または海岸に飛び降りて巣立ったことが確認されている. 主にオスが巣立ったヒナを海上で育雛し(Scott 1990), メスは巣立ち後も数日~2週間ほどは頻繁に繁殖地を訪れる(他のつがいのヒナの捕食回避のために繁殖密度を高めるため, あるいは翌年の繁殖場所の確保のためと考えられている). ヒナは海上に出てから独立するまでに1~2ヶ月を要する(Manual & Carter 2001). 天売島の2012~2014年の繁殖成功率は69.2~73.3%(n=45)だった. うち2つ目の卵を産んだつがいの繁殖成功率は50%(n=4)だった. また2013年以降の新規繁殖個体の繁殖成功率は25%(n=4)だった.



写真3. ヒナ

Photo by 青塚松寿

### 渡り:

個体群が小さいため, あるいは行動圏が限られているためか, 繁殖期にあたる5月以降に, 羽幌から天売島へ向かうフェリー航路でウミガラスを見かけることはまずない. 繁殖が終わる8月に繁殖地周辺から完全にいなくなり, 再び天売島周辺に現れるのは11月である. 天売島の個体群は8月から10月まで北方のオホーツク海等で越冬していると推察される. 11月以降は3月まで天売島周辺の海で観察される. 冬期には日本海側で福井県, 太平洋側では静岡県県までウミガラスの記録がある.

#### 4. 食性と採食行動

ウミガラスは最大で180mの潜水記録があり(Piatt & Nettleship 1985), 頭から半分魚を飲み込んだ状態で繁殖地へ運んでくる。天売島ではかつてヒナに持ってくる餌はイカナゴが主体であったが、イカナゴ資源が激減した近年はイカナゴ以外にカジカ、ギンポなどの餌を持ってくる(北海道地方環境事務所 2015)。繁殖地を出て餌を持ってくるまで、早い場合には10~20分程度だった。また他の個体の餌を横取りし自分のヒナに与えることがあった。

#### 5. 興味深い生態や行動, 保護上の課題

##### ● 天売島ウミガラス繁殖地消滅の危機

1963年には8000羽を数えた天売島の繁殖個体数は、その後数十年で激減している(図1)。激減の理由は定かではないが、餌の減少のほか、卵の採取、漁網による混獲(特にさけ・ます流し網)、観光による攪乱などが挙げられるが、攪乱行為は近年はほとんど行われなくなった(Hasebe *et al.* 2012)。しかし、ウミガラスの個体数が減少した頃、捕食者であるオオセグロカモメが増加したため、捕食者の攻撃からヒナや卵を十分に守れず、繁殖個体群の減少が加速した。

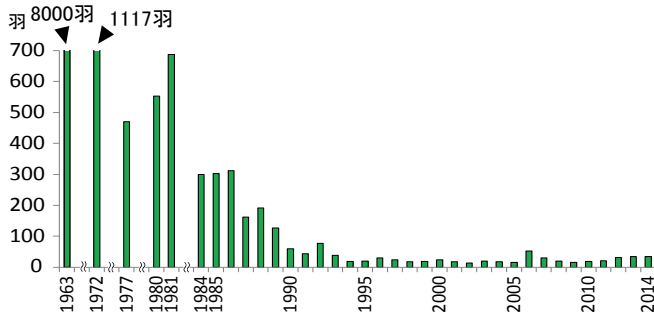


図1. 1963年~2014年の天売島のウミガラス最大個体数。

##### ● 今後の研究及び保護の展望

天売島の海拔50mの切り立った岩にかつて大繁殖地があり、『赤岩』と呼ばれていた。その対岸は赤岩対崖と呼ばれ、ここにも繁殖地があった(写真4)。赤岩対崖の一部にはくぼみがあり、そこも2000年代に入って繁殖地として利用されなくなったが、繁殖地が消滅しかかった2008年、ウミガラスは捕食者の攻撃を受けにくいこの場所で再び繁殖を始め、数年ぶりにヒナが巣立った。



写真4. 赤岩(左)と赤岩対崖繁殖地(正面1950年代 村田英二撮影)くぼみの白くなっている部分はウミガラスの繁殖地。その上段の崖にも繁殖地がある。

2009年、すでに行われていたウミガラスの誘引の場所をこの場所に変更し、デコイを増設し、声も流したが、捕食者による攻撃を十分に防げなかった(Hasebe *et al.* 2012)。

2011年からウミガラス繁殖地周辺で、空気銃を利用してオオセグロカモメを捕獲した結果、ウミガラス繁殖地へのオオセグロカモメの飛来

は途絶え、巣立ち率が大幅に向上した(図2)。

当面の目標は、残っている繁殖地でウミガラスの数を増やし次世代を育て、捕食者に襲われやすい開けた繁殖地で繁殖できるほどの数に回復させることである。かつてのような大繁殖地を復活させることが最終的な目標である。

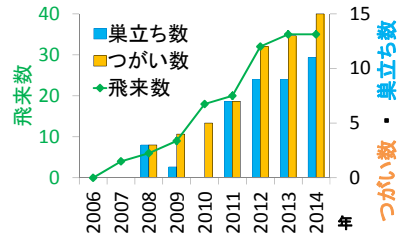


図2. 2006~2014年の天売島赤岩対崖繁殖地におけるウミガラスの飛来数・つがい数・巣立ち数

#### 6. 引用・参考文献

Gaston, A. J., Jones, I. L. 1998. The Auks: Alcidae (Bird Families of the World). Oxford University Press, Oxford.

藤巻裕蔵. 1961. モユルリ島の海鳥類. 鳥 16:387-398.

Harris, M. P. & Birkhead, T. R. 1985. Breeding ecology of the Atlantic Alcidae. In: Nettleship D. N. & Birkhead T. R. (ed) The Atlantic Alcidae. Academic Press, London. pp. 155-204.

Harris, M. P., Halley, D. J. & Swann, R. L. 1994. Age of first breeding in Common Murres. Auk, 111: 207-209.

Harris M. P., Wanless S. & Barton, T. R. 1996. Site use and fidelity in the Common Guillemot *Uria aalge*. Ibis 138: 399-404.

Hasebe, M., Aotsuka, M., Terasawa, T., Fukuda, Y., Niimura, Y., Watanabe, Y., Watanuki, Y. & Ogi, H. 2012. Status and Conservation of the Common Murre *Uria aalge* breeding on Teuri Island, Hokkaido. Ornithological Science 11: 29-38.

北海道地方環境事務所. 2015. 平成26年度ウミガラス保護増殖事業報告書. 北海道地方環境事務所, 札幌.

黒田長久. 1963. 天売島海鳥調査(附陸鳥). 山階鳥類研究所研究報告 3: 363-383.

Manuwal, D. A. & Carter, H. R. 2001. Natural history of the Common Murre (*Uria aalge californica*). In: Manuwal, D. A., Carter, H. R., Zimmerman, T. S., & Orthmeyer, D. L. (eds) Biology and conservation of the Common Murre in California, Oregon, Washington, and British Columbia. Volume 1: Natural history and population trends. U.S. Geological Survey, Biological Resources Division, Information and Technology Report USGS/BRD/ITR- 2000-0012, Washington, D.C. pp. 1-32.

Piatt, J. F. & Nettleship, D. N. 1985. Diving depths of four alcids. Auk 102: 293-297.

Scott, J. M. 1990. Offshore distributional patterns, feeding habits, and adult-chick interactions of the common murre in Oregon. In: Sealy S. G. (eds) Auks at Sea (Studies in Avian Biology No 14). pp. 103-108

Tuck, L. M. 1960. The Murres, their distribution, populations and biology. Canadian Wildlife Series: 1. Queen's Printer, Ottawa.

#### 執筆者

長谷部真 北海道海鳥保全研究会 代表

1976年東京生まれ。2003年、オーストラリアチャールズダーウィン大学で熱帯環境管理学修士号を取得。2009~2015年まで北海道海鳥センターの自然保護専門員として、天売島のウミガラス保護増殖事業のほか、ケイマフリ・ウミスズメの繁殖生態の解明に取り組んだ。このほか北海道北部日本海側や礼文島、飛島の海鳥調査にも足を運ぶ。2015年4月よりNPO法人サロベツ・エコ・ネットワークに所属。

